

2022年度（2023年3月期） 決算説明会



2023年5月19日

目次

Part I . 決算実績・業績予想	p. 2
Part II . 中期経営計画の進捗状況	p. 19
Appendix . 会社紹介、関係会社事業紹介	p. 26



Part I . 決算実績・業績予想

① 連結損益計算書

- 売上高、各段階利益ともに前期実績、業績予想（2022/10/27付）を上回った。
- 4Qに日本社跡地を売却し、特別利益743百万円を計上。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度	前期比		2022年度	予想比	
	実績	実績	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	66,948	72,849	+ 5,900	+ 8.8%	72,000	+ 849	+ 1.2%
売上総利益	19,658	20,616	+ 957	+ 4.9%	20,500	+ 116	+ 0.6%
販売費及び 一般管理費	16,474	16,670	+ 195	+ 1.2%	16,700	△ 29	△ 0.2%
営業利益	3,183	3,946	+ 762	+ 24.0%	3,800	+ 146	+ 3.8%
経常利益	3,465	4,316	+ 850	+ 24.6%	4,200	+ 116	+ 2.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,031	3,458	+ 1,426	+ 70.2%	3,300	+ 158	+ 4.8%
国産ナフサ(円/KL)	56,625	76,625	+ 20,000	+ 35.3%	83,750	△ 7,125	△ 8.5%

②主要セグメントの状況：国内塗料

- 一般用は、構造物用の堅調な需要が継続。工業用は、建材用の低迷により予想水準に対して未達。
- 生産効率化及び原材料や塗料配合の見直し等による原材料コスト低減策に努め、予想比増益。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度	前期比		2022年度	予想比	
	実績	実績	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	49,622	53,250	+ 3,628	+ 7.3%	53,300	△ 49	△ 0.1%
一般用分野	18,531	21,057	+ 2,525	+ 13.6%	20,620	+ 437	+ 2.1%
工業用分野	17,359	18,147	+ 787	+ 4.5%	18,650	△ 502	△ 2.7%
その他分野	3,958	4,064	+ 106	+ 2.7%	3,980	+ 84	+ 2.1%
子会社/調整	9,772	9,981	+ 208	+ 2.1%	10,050	△ 68	△ 0.7%
営業利益	1,990	1,986	△ 3	△ 0.2%	1,800	+ 186	+ 10.4%

③主要セグメントの状況：海外塗料

- シンガポール・マレーシアでは焼付用塗料が好調に推移。北中米は、主要顧客の生産減少を受け自動車部品用塗料の需要が減少。中国は、焼付用塗料は堅調も、ゼロコロナ政策による影響を受け自動車部品用塗料の需要が減少。北中米、中国では現地通貨ベースでは予想比減少となった。
- 利益面は、タイ・メキシコにおける需要減及び中国における滞留在庫の評価減により、予想比減益。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度	前期比		2022年度	予想比	
	実績	実績	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	6,939	8,066	+ 1,127	+ 16.2%	7,350	+ 716	+ 9.7%
東南アジア	4,929	5,771	+ 842	+ 17.1%	5,400	+ 371	+ 6.9%
中国	1,017	1,200	+ 182	+ 18.0%	900	+ 300	+ 33.4%
北中米	992	1,094	+ 102	+ 10.3%	1,050	+ 44	+ 4.3%
営業利益	236	203	△ 32	△ 13.8%	400	△ 196	△ 49.1%

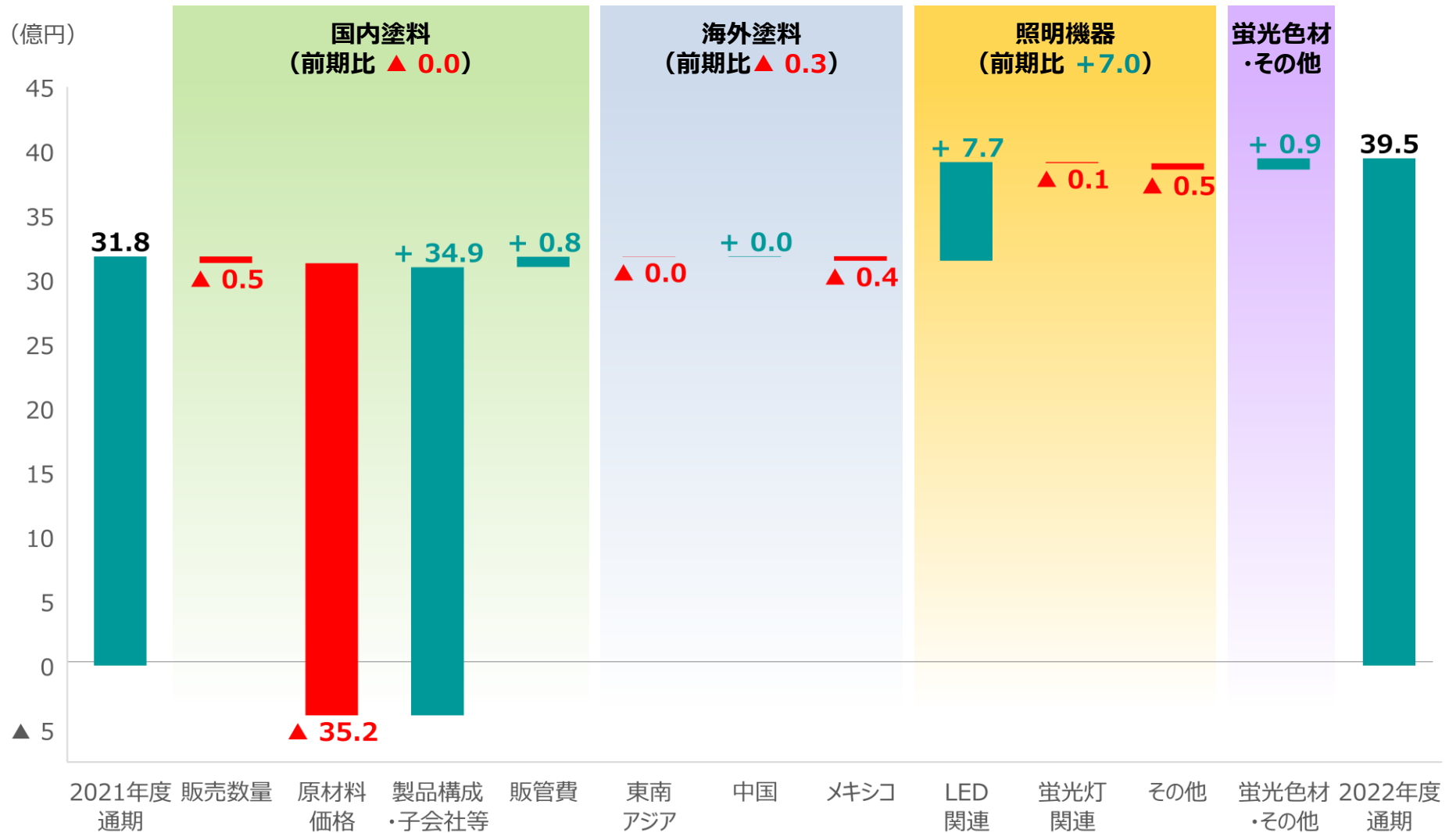
④主要セグメントの状況：照明機器

- 主力のLED部門が、首都圏の再開発案件需要の取り込み等による数量増と価格是正の効果で全体売上が牽引、蛍光灯や施工部門の減収をカバーし、ほぼ予想水準の増収。
- 増収に加え、LEDと蛍光灯関連における価格是正の効果が大きく大幅増益を達成。次年度以降にも繋がる新たな価格体系が構築された。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度	前期比		2022年度	予想比	
	実績	実績	増減額	増減率	業績予想※	増減額	増減率
売上高	7,656	8,557	+ 901	+ 11.8%	8,500	+ 57	+ 0.7%
LED関連	4,973	6,137	+ 1,163	+ 23.4%	6,300	△ 163	△ 2.6%
蛍光灯関連	917	816	△ 101	△ 11.1%	900	△ 84	△ 9.3%
UV/施工/他	1,764	1,603	△ 160	△ 9.1%	1,300	+ 303	+ 23.4%
営業利益	577	1,285	+ 708	+122.8%	1,200	+ 85	+ 7.1%

※2022年11月の決算説明資料では照明機器の売上構成に関する記述は行わなかったが、今回、当時の前提を遡って記載。

⑤ 連結営業利益（実績）の増減要因



⑥連結貸借対照表

- 流動化債権の一部を通常借入にシフトしたことで、売上債権が増加。

(単位：百万円)	2022年3月末	2023年3月末	増減額
流動資産	34,773	38,604	+ 3,830
現金及び預金	6,777	6,864	+ 86
受取手形、売掛金及び契約資産	16,411	19,293	+ 2,881
棚卸資産	10,228	11,141	+ 912
その他流動資産	1,355	1,304	△ 50
固定資産	52,932	54,200	+ 1,268
有形固定資産	25,591	25,545	△ 45
無形固定資産	374	445	+ 70
投資その他の資産	26,965	28,210	+ 1,244
資産合計	87,705	92,805	+ 5,099
負債合計	35,713	37,594	+ 1,880
(借入金残高)	(4,250)	(5,000)	(+ 750)
純資産合計	51,991	55,210	+ 3,218
負債純資産合計	87,705	92,805	+ 5,099

⑦連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2021年度	2022年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,364	1,282	△ 2,082
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 966	△ 1,449	△ 482
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,841	△ 473	+ 2,367
現金及び現金同等物に係る換算差額	186	502	+ 316
現金及び現金同等物の増減額	△ 257	△ 138	+ 118
現金及び現金同等物の期首残高	6,736	6,479	△ 257
現金及び現金同等物の期末残高	6,479	6,340	△ 138

① 2023年度における主要セグメントの見通し

国内塗料

- 一般用分野は、構造物用塗料を中心に引き続き堅調な需要見通し。
- 工業用分野は、建材用塗料の回復に弱さがみられるが、半導体不足による自動車産業や電気機器向けの需要停滞から徐々に需要回復の見通し。
- エネルギー価格の上昇や不透明な原材料価格の動向に対しては、製造コスト圧縮や原材料コストの低減に努めるほか、弾力的な価格戦略を講じて対応。

海外塗料

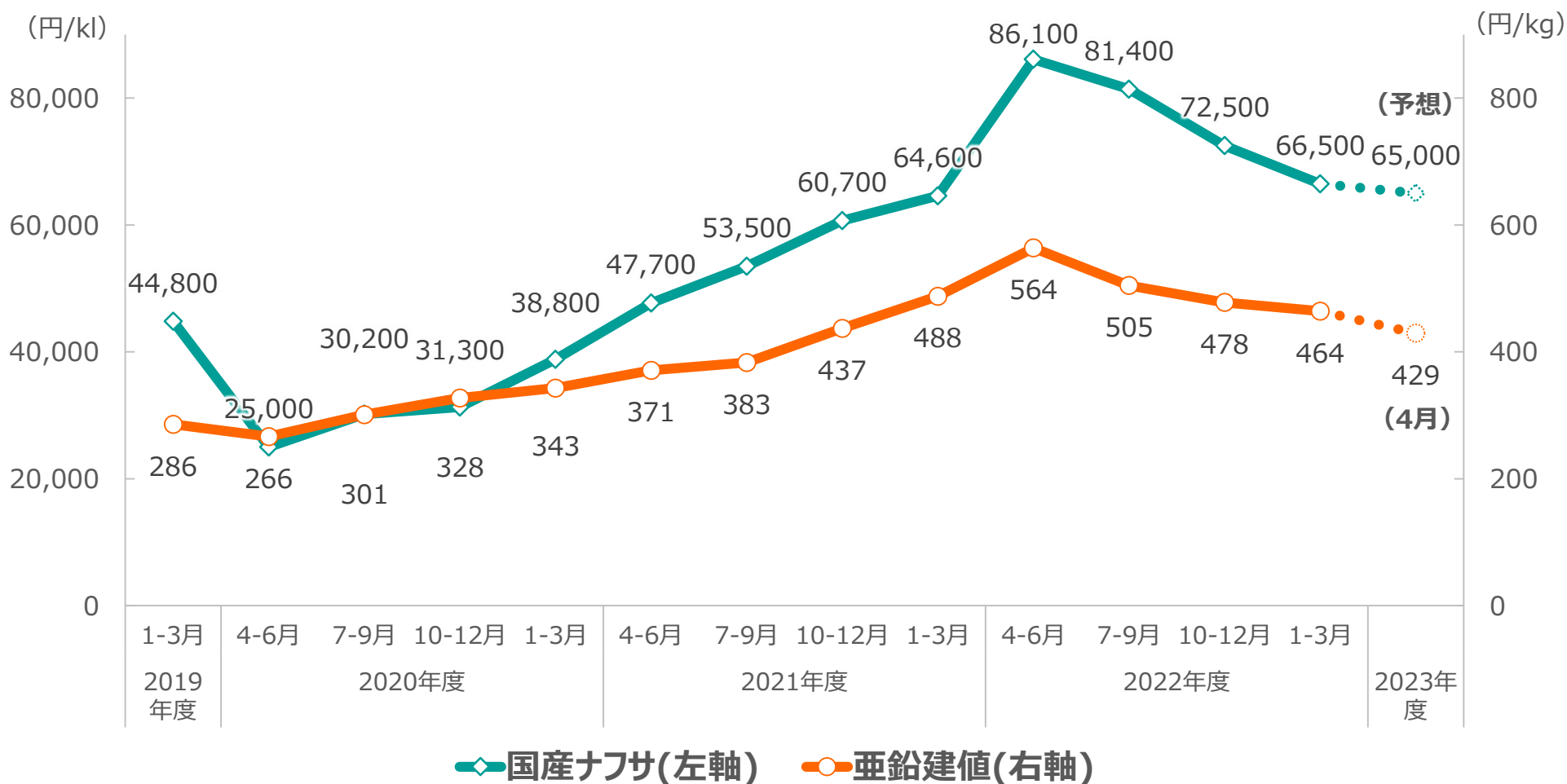
- 半導体不足や部品調達難による自動車生産への影響の緩和は地域によりバラツキがあり、北中米は回復傾向にあるものの、中国では回復が鈍い状況。
- 海上運賃や原材料価格の上昇に対しては、タイでは製造ラインへのバーコードシステム導入により生産性向上に努めるほか、弾力的な価格戦略を講じて収益改善を図る。

照明機器

- ホテル、オフィスを中心とした再開発案件は引き続き堅調。百貨店など主力の商業施設向け需要はインバウンドの増加等もあり下期中心に回復の見通し。
- 原材料価格や物流コストの上昇に対しては、前期に引き続き一部商品の価格是正を実施し、事業利益率の維持・向上に努める。

② 主要な原材料価格の見通し

- 国産ナフサ価格および亜鉛建値は2022/4-6月をピークに下落傾向。
- 一方、主要顔料である酸化チタンや容器に用いる鉄鋼価格などが上昇傾向。



① 連結損益計算書（予想）

- 国内の一般用分野や照明機器の堅調な需要および価格是正の通期寄与により増収を見込む。
- 中計目標に対しては、売上は達成を見込むが利益面は原材料高影響を補うまでには至らない見通し。

(単位:百万円,%)	2022年度	2023年度	前期比		2023年度	中計比	
	実績	予想	増減額	増減率	中計	増減額	増減率
売上高	72,849	75,000	+ 2,150	+ 3.0%	75,000	0	0.0%
売上総利益	20,616	22,000	+ 1,383	+ 6.7%	24,300	△ 2,300	△ 9.5%
販売費及び 一般管理費	16,670	17,000	+ 329	+ 2.0%	17,700	△ 700	△ 4.0%
営業利益	3,946	5,000	+ 1,053	+ 26.7%	6,600	△ 1,600	△ 24.2%
経常利益	4,316	5,200	+ 883	+ 20.5%	6,700	△ 1,500	△ 22.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,458	3,400	△ 58	△ 1.7%	4,000	△ 600	△ 15.0%
国産ナフサ(円/KL)	76,625	65,000	△ 11,625	△ 15.2%	37,000	+ 28,000	+ 75.7%

②主要セグメントの見通し：国内塗料

- 一般用、工業用ともに拡販に努めながら弾力的な価格戦略を講じて売上増を見込む。
子会社では、粉体製造塗料子会社の合併解消により売上減少(利益への影響は僅少)。
- 実質的な売上増により増益を見込むが、中計水準には至らない見通し。

(単位:百万円,%)	2022年度	2023年度	前期比		2023年度	中計比	
	実績	予想	増減額	増減率	中計	増減額	増減率
売上高	53,250	53,400	+ 149	+ 0.3%	54,000	△ 600	△ 1.1%
一般用分野	21,057	22,400	+ 1,342	+ 6.4%	19,700	+ 2,700	+ 13.7%
工業用分野	18,147	19,850	+ 1,702	+ 9.4%	19,340	+ 510	+ 2.6%
その他分野	4,064	4,300	+ 235	+ 5.8%	5,180	△ 880	△ 17.0%
子会社/調整	9,981	6,850	△ 3,131	△ 31.4%	9,780	△ 2,930	△ 30.0%
営業利益	1,986	2,450	+ 463	+ 23.3%	3,600	△ 1,150	△ 31.9%

③主要セグメントの見通し：海外塗料

- タイは自動車生産台数の回復を見込むほか、新規獲得によるシェア拡大に注力。北中米は非日系メーカーへの入り込みを強化。中国は粉体・水性・GB規格対応塗料等の環境対応製品を軸に顧客開拓に注力。
- 海上運賃や原材料価格の上昇に対し、タイでは製造ラインへのバーコードシステム導入により生産性向上に努めるほか、弾力的な価格戦略を講じる。中国では価格是正、コスト削減により赤字圧縮に努める。

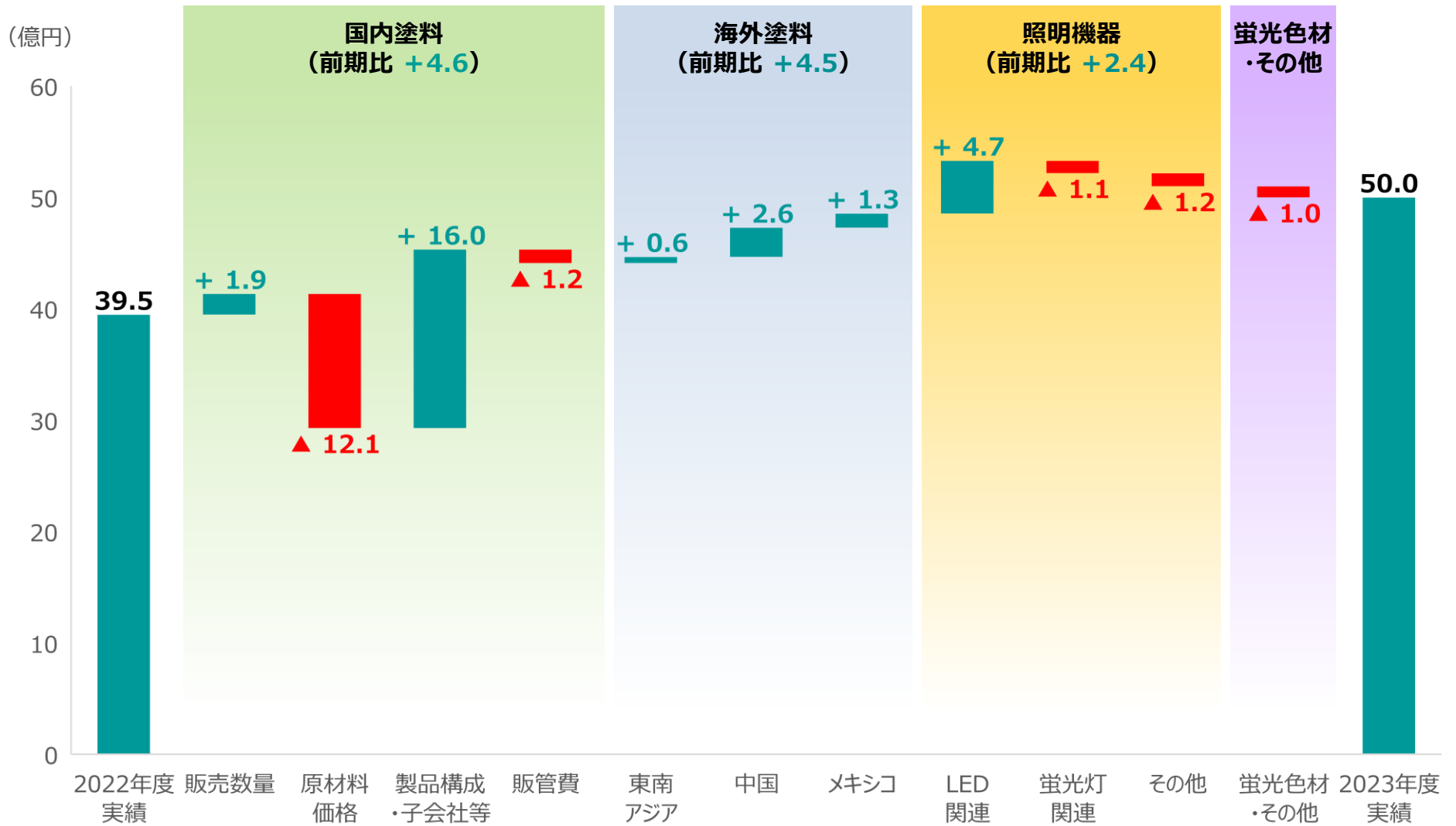
(単位:百万円,%)	2022年度	2023年度	前期比		2023年度	中計比	
	実績	予想	増減額	増減率	中計	増減額	増減率
売上高	8,066	8,950	+ 883	+ 11.0%	8,200	+ 750	+ 9.1%
東南アジア	5,771	6,230	+ 458	+ 7.9%	5,600	+ 630	+ 11.3%
中国	1,200	1,280	+ 79	+ 6.6%	1,600	△ 320	△ 20.0%
北中米	1,094	1,440	+ 345	+ 31.5%	1,000	+ 440	+ 44.0%
営業利益	203	650	+ 446	+219.2%	1,100	△ 450	△ 40.9%

④主要セグメントの見通し：照明機器

- 再開発案件需要の取り込みや商業施設向け需要の回復に伴い、LED部門が伸長。半導体関連向けUVランプの増加も見込め、増収基調を継続。
- 原材料価格や物流コストの上昇に対しては、前期に続き価格是正を実施。事業利益率も維持、向上が期待できることから、売上、利益ともに中計目標を上回る着地を見込む。

	2022年度	2023年度	前期比		2023年度	中計比	
	実績	予想	増減額	増減率	中計	増減額	増減率
(単位:百万円,%)							
売上高	8,557	9,600	+ 1,042	+ 12.2%	9,400	+ 200	+ 2.1%
LED関連	6,137	7,187	+ 1,050	+ 17.1%	-	-	-
蛍光灯関連	816	665	△ 150	△ 18.4%	-	-	-
UV/施工/他	1,603	1,746	+ 143	+ 8.9%	-	-	-
営業利益	1,285	1,530	+ 244	+ 19.0%	1,300	+ 230	+ 17.7%

⑤ 連結営業利益（予想）の増減要因



設備投資・減価償却費・研究開発費

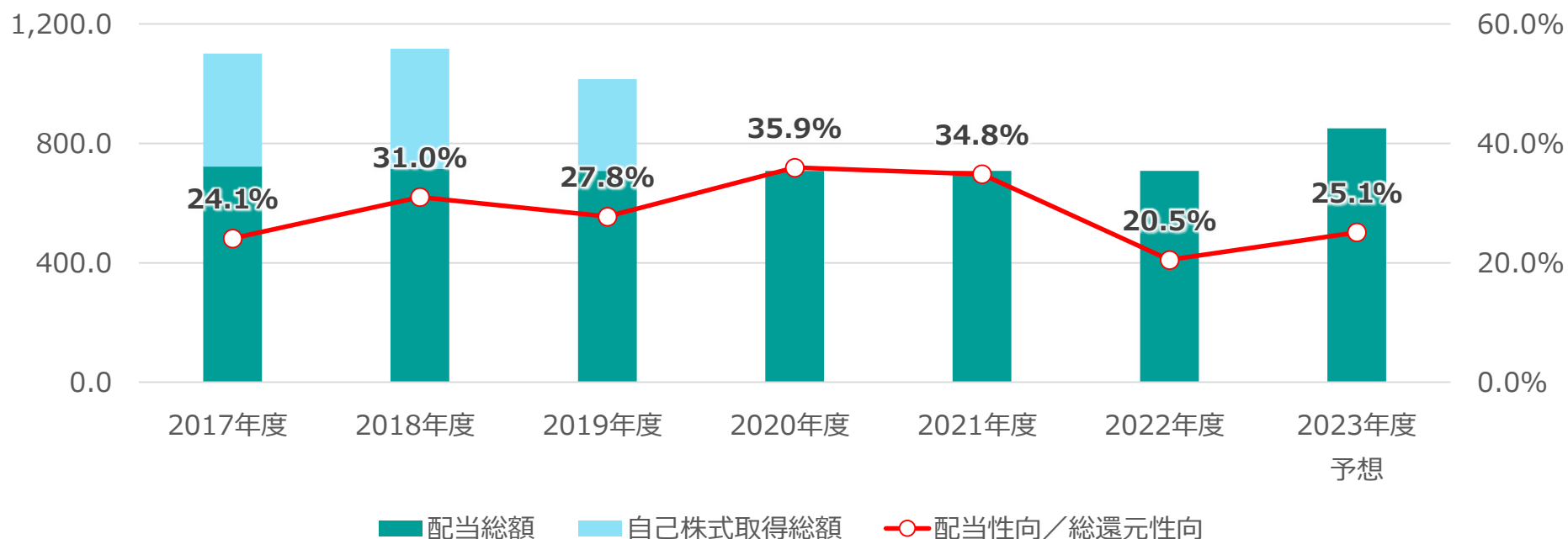
- 2022年度は、DNライティング（照明機器）による事業用土地取得、DNT山陽ケミカル(販売子会社)における営業所移転に伴う土地取得により設備投資額が増加。
- 2023年度は、主に生産工場の効率化投資および老朽化対応により設備投資額が増加する見通し。

(単位：百万円、%)	2021年度	2022年度	2021年度比	2023年度	2022年度比
	実績	実績	増減額	予想	増減額
減価償却費	2,545	2,396	△ 148	2,450	+ 53
設備投資額	1,972	2,961	+ 989	3,200	+ 238
研究開発費	1,969	2,020	+ 51	2,000	△ 20

株主還元

- 2022年度決算における配当は、公表どおりの1株当たり25円。
- 2023年度決算における配当は、業績回復に鑑み5円増配の1株当たり**30円**予想。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
一株当たり配当金	25円	25円	25円	25円	25円	25円	30円
自己株式取得額	379百万円	402百万円	308百万円	取得なし	取得なし	取得なし	未定

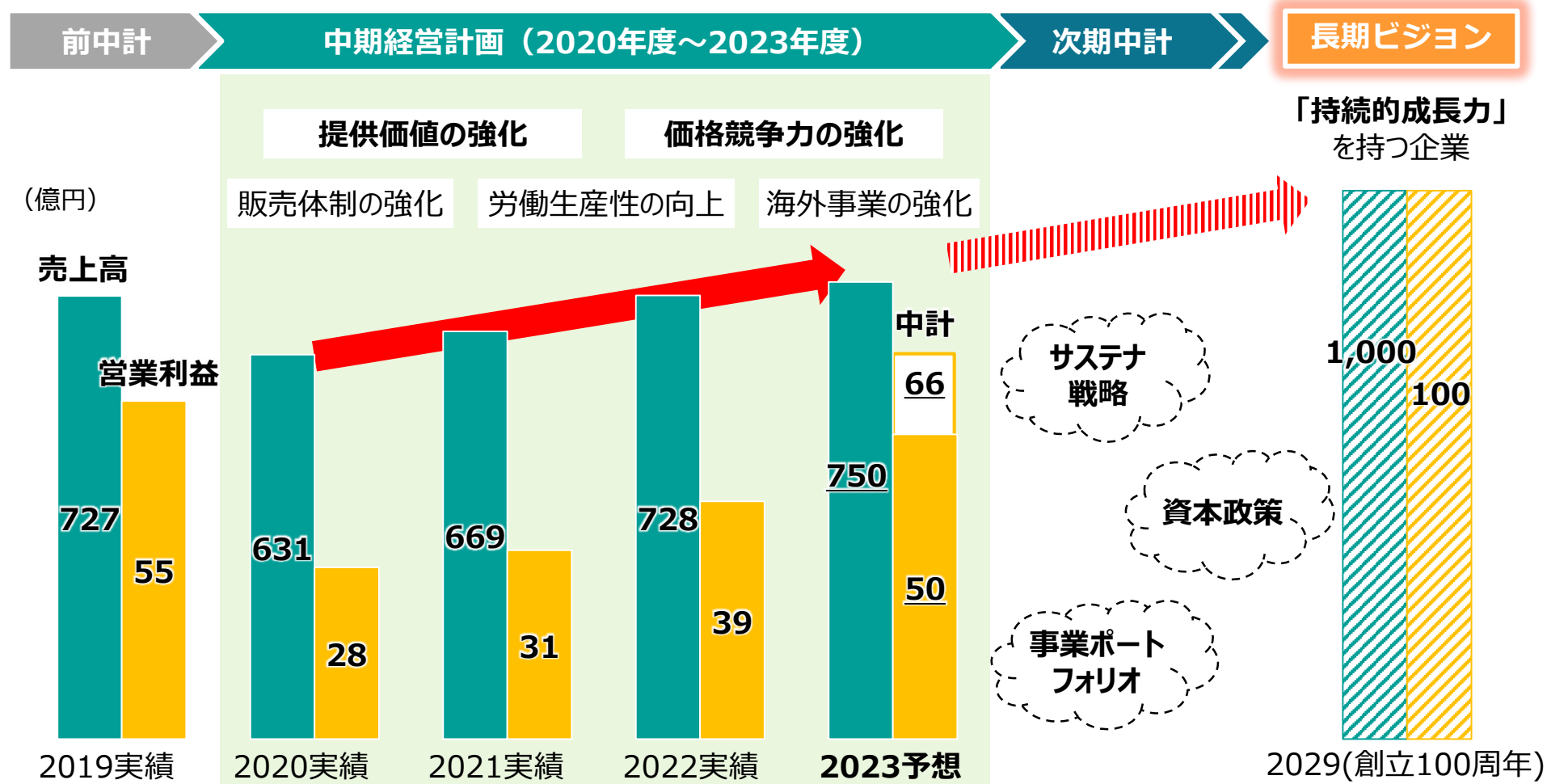




Part II. 中期経営計画の進捗状況

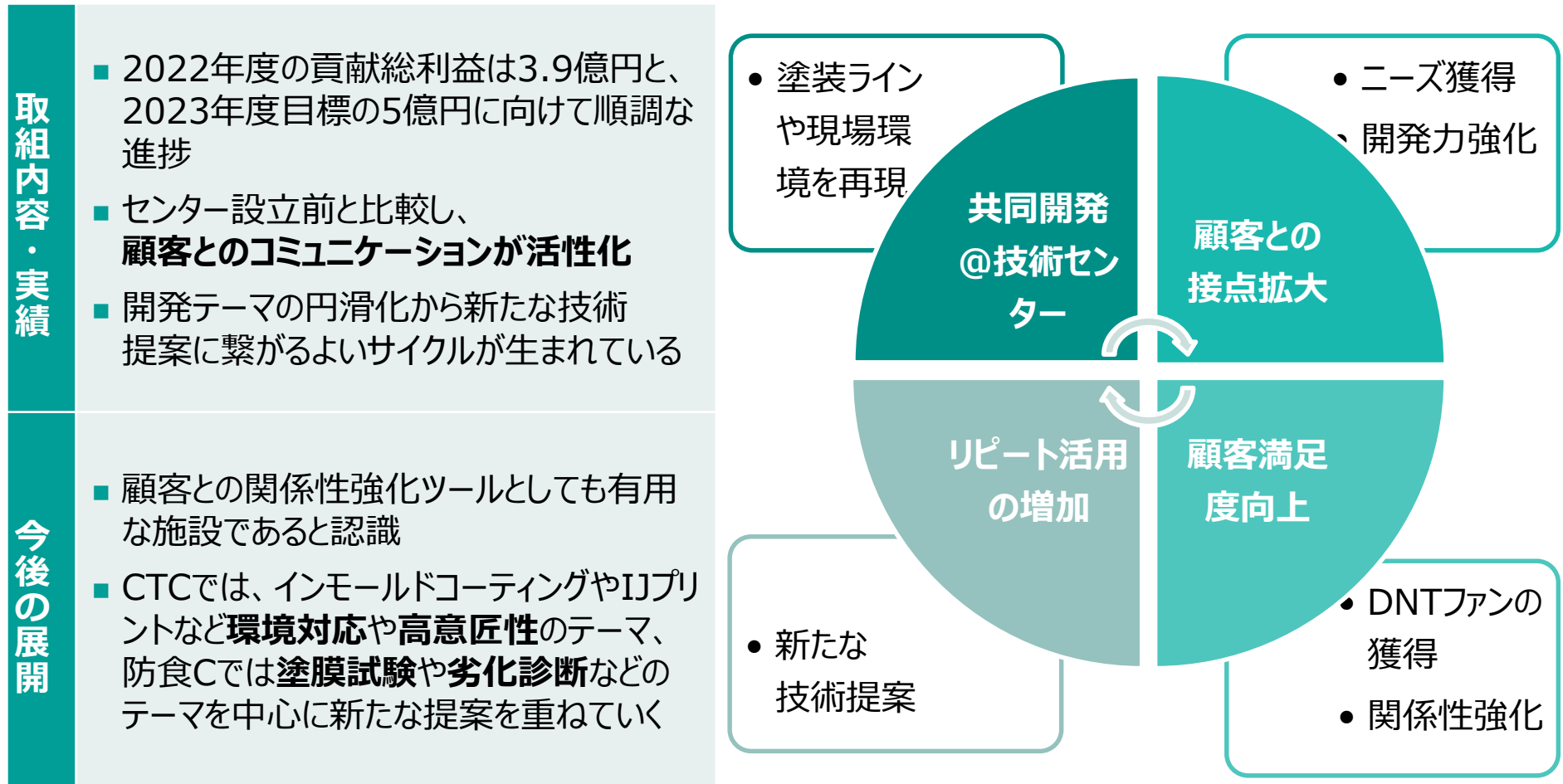
現中期経営計画の概要

- 長期ビジョンとして「持続的成長力を持つ企業」をあるべき姿として掲げ、現中計で成長軌道の確立を図る。
- 重要指標とした売上高は中計目標の750億円を射程圏内にとらえる。一方、利益面は原材料価格の上昇負担が重く、未達の見通し。



①提供価値の強化（技術センターの活用）

- 塗装ラインの再現などの顧客への付加価値提供を通じて販売活動への貢献も徐々に拡大。
- 次期中計以降も見据え、顧客の利用循環性を高めるべく、新たな技術提案を積極化。

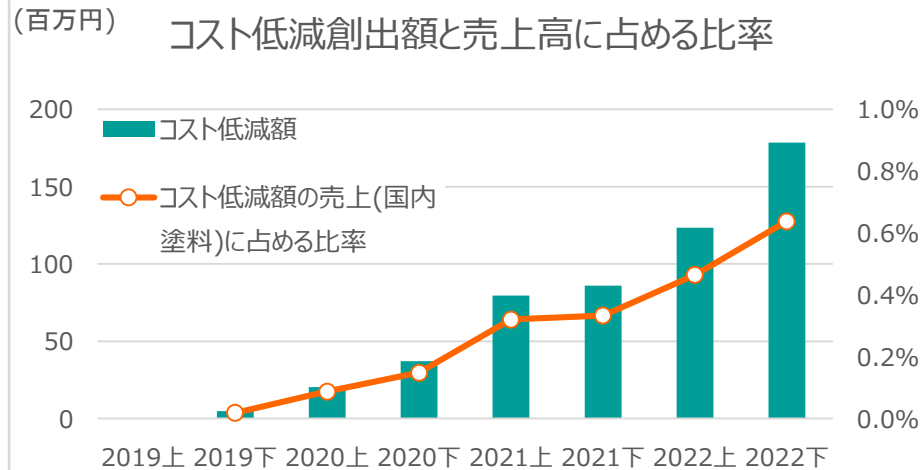


② 価格競争力の強化

- 原材料価格の上昇に対し、配合見直し等によってその影響の抑制に注力。目標水準には未達の推移も、副次的な効果も確認できており、引き続き活動を強化していく。
- 生産拠点は集約と効率化を通じてコスト圧縮を実施。老朽化対応も含め、引き続き検討を継続。

原材料コスト低減

- 配合見直しやそれに伴う生産効率化、まとめ購買、個別折衝によるコスト低減効果を創出



- 目標の材料比率△1%に向けて活動を強化。
- 購買～生産～開発～営業間での原料情報の共有化の進展、技術員の原料に対する知識の深耕、BCP対策の強化といった効果も生まれている。

製造コスト圧縮

- 拠点の集約と集約先における能増により、固定費の圧縮と生産効率化を実現

- 2020～21 調色場の能増および集約
 - 2021～22 子会社合併を通じた生産拠点の集約および外注品の内作化
- ⇒ 合わせて約**200百万円強**の圧縮

今後、基幹工場である小牧工場の老朽化対応に合わせて、更なる効率化に向けた取り組みを継続

照明機器事業の強化

- 中計最終年度目標の達成に向け、「業容の拡大」とそれを支える「基本体質の強化」を両輪で進める。
- 今後の更なる成長を見据え、更なる生産効率化や技術開発力の強化、物流効率化に向けた検討を開始。

新市場開拓を含めた取引先基盤の拡充

■ 既存市場の拡充

- ⇒ ホテルやオフィス関連の需要取り込み強化、再開発事業・インバウンドの回復

照明デザイン事務所へ提案活動の強化

■ 新市場開拓

- ⇒ 百貨店やホテル向けに培った付加価値の高い照明器具を新市場へ投入

製品組み込み照明の
着実な進展

住宅市場への参入

- マーケティング・コミュニケーションを起点とした発信力の強化を通じた顧客訴求力の向上

共通テーマでDNTとの合同セミナーの開催

- 新製品を活用した既存先へのシェアアップ

- ⇒ 無線調光調色システム開発、モジュール・間接照明商品の拡充

生産体制と製品開発体制のレベルアップ

- プロセスイノベーションPJ(生産効率化)の成果発現

- ⇒ FA化の推進(大型・細型LED分割ライン)

- 海外を含めたグループ生産体制の見直し

- ⇒ 円安対策として、海外品を積極的に内製化

- 外部連携を含めた製品開発体制の強化とスピードアップ

- 物流体制の見直しと在庫管理のレベルアップ

次期中計以降における更なる成長を見据え、

- ⇒ 技術センターや物流効率化に向けた物流センターの設立を検討中

ESGに関する取り組み

- GHG排出量の算定作業を進行中。2023年度の統合報告書にてScope3(国内)の開示を予定。
- 当社独自の環境対応製品の基準を定義し、販売数量、開発テーマにKPIを設定し比率向上に努める。

GHG排出量算定、対応策の検討

- GHG排出量のグループ連結での算定と今後の対応策の検討に向け、2023年度より活動単位をDNT単体からグループ全体へ拡大

Scope1,2 ⇒ 全セグメントの算定が完了

Scope3 ⇒ 海外塗料セグメントを除き、算定作業を進行中

⇒ 今年度の**統合報告書**にて開示予定

- ✓ リスクと機会の整理
- ✓ 気候シナリオの構築
- ✓ 財務影響の特定
- ✓ 対応策の検討



環境対応製品の開発・販売










- 当社独自に定義した**環境対応製品**の拡販、開発を強化。

目的	特徴	主な塗料タイプ*
大気汚染低減	低VOC	水性塗料、粉体塗料
健康・環境 負荷低減	有害物質低減	室内環境負荷低減塗料
	環境改善機能	抗菌・抗ウイルス塗料
省資源	リユース・リサイクル	リサイクル原料使用塗料
	長寿命化	高耐久・高耐候塗料
省エネルギー、省工程		低温焼付塗料、遮熱塗料
土壌・海洋汚染防止		生分解性塗料
環境配慮用途		軽量化材向け塗料

KPI 環境対応製品比率：出荷数量ベースで70%以上
 (2021年度実績) 出荷比率：68%
 開発テーマ比率：83.7%

新製品『サビシャットスプレー』の発売

- ロングセラー製品「サビシャット」の防錆効果はそのままに、ユーザーの要望に応じてエアゾール化。
- 作業性の大幅な向上により、職人不足や技能承継といった現場の課題にも対応。

	防錆性比較				試験結果	適用が期待される部位
サビシャット スプレー					「膨れ」や 「サビ」等の異 変無し	 構造物のコンクリート露出鉄筋部
一般的な 補修 スプレー					「膨れ」や 「サビ」が 著しく発生	

一般的な簡易補修用スプレーではサビが再発錆し、コンクリートの割れや欠落を招く

液体状の塗料に必要な「攪拌」「希釈」が不要なため、高度な経験や技能が不要



Appendix. 参考情報

① 会社概要

商号	大日本塗料株式会社 / Dai Nippon Toryo Company,Limited
本社	〒542-0081 大阪府中央区南船場1-18-11 SRビル長堀
設立	1929年7月25日
資本金	8,827,369,650円（2023年3月31日現在）
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4611）
代表者	代表取締役社長 里 隆幸
従業員数	単体：685名 / 連結：2,193名（2023年3月31日現在）
主な事業内容	塗料、ジェットインクの製造、販売 各種塗装機器装置の販売、塗装工事等

②主要事業の概要

- 当社コア技術の重防食塗料は、橋梁や鉄塔、産業プラントなどに塗装され、当分野では国内トップシェア
- 工業用分野では顧客ニーズに細かく対応。インクジェットとの組み合わせにより、独自の価値を顧客へ提供

構造物分野



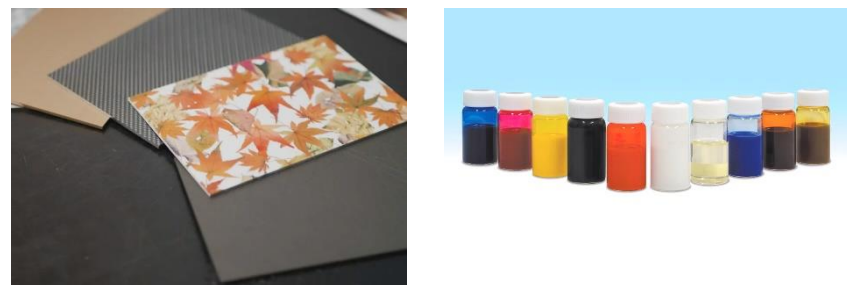
- 重防食塗装により鋼構造物を錆から長期的に保護
- 塗装工程の短縮や塗替えサイクルの長期化により、ライフサイクルコスト、ライフサイクルアセスメントを軽減し、持続可能な社会の実現に貢献

工業用分野



- 顧客ニーズに沿った製品開発により、建材、鋼製家具、建機・農機、金属部材と幅広い分野をカバー

インクジェットプリント



- 塗料とインクの双方を手掛けており、インク的美観性と塗料の耐久性を両立したコーティングを実現

③ 連結業績推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
売上高	73,005	76,388	72,789	74,119	73,743	72,709	63,160	66,948	72,849
営業利益	4,428	5,858	6,533	6,588	6,039	5,547	2,828	3,138	3,946
経常利益	4,498	5,559	6,600	6,392	6,210	5,786	3,268	3,465	4,316
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,756	3,614	5,199	4,573	3,604	3,662	1,968	2,031	3,458
純資産額	28,441	30,620	36,319	43,349	45,083	44,679	50,865	51,991	55,210
総資産額	69,252	67,732	70,374	76,155	78,880	76,817	85,765	87,705	92,805
1株あたり純資産 (BPS)	891.46	974.38	1,171.93	1,410.38	1,478.43	1,475.59	1,698.23	1,730.00	1,829.75
1株あたり当期純 利益 (EPS)	92.83	122.38	178.06	157.70	125.61	128.96	69.55	71.74	121.78
自己資本比率	38.2%	42.3%	48.5%	53.5%	53.6%	54.4%	56.0%	55.9%	56.1%
自己資本利益率 (ROE)	11.4%	13.1%	16.6%	12.2%	8.7%	8.7%	4.4%	4.2%	6.8%

①照明機器事業 (DNライティング(株)・秋田DNライティング(株))

- 様々な空間に対応する多彩な品揃え、お客様ニーズを実現するカスタマイズ力、多品種・高品質を支える自社生産体制により、多様な空間でお客様のニーズを満たす最高のあかり素材を提供し続ける照明専門メーカー

店舗照明



- 百貨店などの商業施設の商品や展示品の魅力を最大限に引き出す棚下照明

建築化照明



- オフィスやホテル、病院、学校、美術館、寺社仏閣などの間接照明、ファサード照明

紫外線除菌装置



- あらゆる場面の空間除菌にご利用いただける除菌装置

電気工事・設計管理

- 信頼性の高い電気設備工事を提供
- 計画、設計から施工まで一貫して取扱う



LED特殊光源



- 防水・防湿技術ノウハウを活かした植物育成用LEDモジュール

② 蛍光色材事業 (シンロイヒ(株))

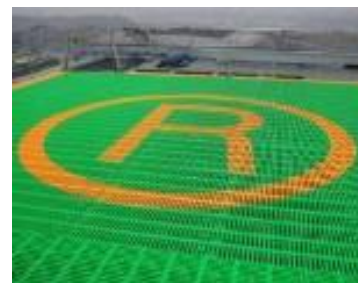
- 主力製品の蛍光顔料のほか、蛍光・蓄光・反射塗料や蛍光・蓄光テープ、UVで発光するルミライトカラーやステルスインキ、視認性の高い蛍光ヘリサイン、安全防災用色材などを手掛ける国内唯一の蛍光色材メーカー

安全防災マーキング



- 蛍光色の落下危険認識CPライン(駅ホーム等)
- 河川の氾濫から人命を守る蛍光表示の量水標

ヘリポートサイン



- 高層ビルの災害時に高い視認性で効果を発揮する緊急離発着場専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 衣服など繊維の染色や印刷用途で使用されている蛍光顔料

テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

本日はありがとうございました

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 経営企画室

.....

電話：06-6266-3103
e-mail：dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。